

歯内治療学入門（室町 幸一郎）

Introduction to endodontology (Koichiro Muromachi)

キーワード

- ① 歯内治療学
- ② 象牙質-歯髄複合体
- ③ 象牙芽細胞
- ④ 歯髄疾患、根尖歯周組織疾患
- ⑤ 歯髄保存療法と歯髄の創傷治癒機序

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

②

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

②

授業概要

歯内治療学は歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の成立と病態を理解し、診断、予防、治療を探求して歯を口腔内に保存することを目的とする歯学の一分野である。歯内治療学入門では、象牙質-歯髄複合体と根尖歯周組織の常態と病態、治癒過程を理解するために必要な基礎知識と解析手法について講義をおこなう。

授業科目の学修目標

歯髄疾患、根尖歯周組織疾患の常態と病態、治癒プロセスを組織学的・分子生物学的視点から理解するとともに、解析に必要な知識を修得する。

授業計画

- ① 歯内治療学総論
 - ・ 歯科医学における歯内治療学の意義(2コマ) 室町幸一郎
 - ・ 歯内治療学の歴史(2コマ) 室町幸一郎
- ② 倫理教育
 - ・ 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(2コマ) 室町幸一郎
- ③ 象牙質-歯髄複合体と根尖歯周組織の常態(6コマ) 室町幸一郎
- ④ 歯髄疾患と根尖歯周組織疾患の病態(6コマ) 室町幸一郎
- ⑤ 歯内治療学の診断と治療(6コマ) 室町幸一郎
- ⑥ 歯内治療学における研究の潮流と研究手法(6コマ) 室町幸一郎

教科書および参考書

- ① Cohen's Pathways of the Pulp (13th edition)
- ② Seltzer and Bender's Dental Pulp (2nd edition)

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

歯内治療学に関する学士(大学歯学部卒業相当)の知識が要求される。また、教科書や国内外の原著論文や総説論文を熟読し、その内容を理解する能力が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 歯内治療学の意義と基本的事項を説明できる。
- ② 歯内治療学における倫理規範を理解し、説明できる。
- ③ 歯内治療学の研究の潮流と研究手法を理解し、説明できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

レポートは講義で教授した知識の理解度を形成的に評価する。(10%×5回)

口頭試問はレポート提出時におこない、知識の理解度を形成的および総括的に評価する。(10%×5回)

理想的な達成レベルの目安

歯内治療学入門の理想的な達成レベルは80%以上とする。